

研究部通信

発行日：令和2年（2020年）8月26日（水）

第2号

文責：研究部職員

今年度の研究は、小中高が縦割りのグループに分かれ、「生活・職家」「体育」について系統性を意識しながら授業検討等を行うものになっています。今回はそんな小中高で共通して存在していない教科に関する系統性を、小学部の生活科を中心に見ていきたいと思えます。

小学部「生活科」の系統性特集

小学部の生活科における系統性について、そして具体的に生活科のどの内容が中学部のどの教科と系統性をもっているのか、学習指導要領解説各教科編（小中学部）の記述を基に解き明かしていきたいと思えます。

まずは、小学部生活科の項に系統性についてどのような記述があるのかを見てみましょう。

イ 各教科等との関連を回り、指導の効果を高めるようにするとともに、中学部の社会科、理科及び職業・家庭科の学習を見据え、系統的・発展的に指導できるようにすること。

（指導要領解説 各教科 小学部生活科 指導計画作成上の配慮事項 p71）

各内容の関連性を踏まえ、「ア基本的な生活習慣」、「イ安全」、「ウ日課・予定」は、主に基本的な生活習慣に関する内容、「エ遊び」、「オ人との関わり」、「カ役割」、「キ手伝い・仕事」、「ク金銭の扱い」は、主に生活や家庭に関する内容、「ケきまり」、「コ社会の仕組みと公共施設」は中学部における社会、「サ生命・自然」、「シものの仕組みと働き」は、中学部における理科につながる内容としている。

（指導要領解説 各教科 小学部生活科 生活科の内容 p43）

このように小学部の「生活科」は中学部の「理科」「社会」「職業・家庭科」につながる内容になっており、今回の研究でねらっている系統性の意識は必要不可欠なものであることが分かりますね。そして、生活科の内容を項目ごとに詳しく見ていくと…

3段階では、きまりやマナーの意味を理解し、それらを守って主体的に行動しようとする意欲や態度を育てていくことが大切である。また、この段階では、中学部社会科「ア社会参加ときまり」の内容との接続を踏まえて指導することが大切である。

（指導要領解説 各教科 小学部生活科 3段階の内容 ケ きまり p68）

上の例ですと小学部生活科の「ケ きまり」と中学部社会科の「ア 社会参加ときまり」のつながりが分かりますね。他の項目や、中学部の各教科の方にも生活科との関連に関しての記述が多くありますので、添付資料、もしくはお手持ちの学習指導要領解説各教科をご参照ください。

そして、学習指導要領に書いてある生活科の関連についての記述を全てまとめ、図に表したものを次のページに載せています。

